

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271100691		
法人名	株式会社 ever 優		
事業所名	ever 優 グループホーム 沼津		
所在地	静岡県沼津市西添町10-12		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=227">x.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=227</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号
訪問調査日	平成26年10月 8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>社名「ever 優」の意味 (いつも、そして永遠にあなたに優しく)とスローガンの「雲心性」(堅固な心と思いやりを持ち、相手の立場になって考える。)を常に意識して仕事をしております。 スローガンの「雲心性」については意味とともに朝礼と申し送り時に職員全員で唱和し意識して仕事をしています。 施設内の衛生面、清潔保持の強化をしている。 畑の整備に力を入れ、利用者に畑に出てもらい収穫の喜びも楽しんで頂くように努めている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ever優グループホーム沼津は、併設のデイサービス沼津と共に開設以来11年を経過しました。沼津市の西部・駿河湾海岸線に沿っての旧原町中心部の施設は東海道本線原駅から徒歩10分の清閑な住宅地に所在します。施設と自治会・地域住民・地域包括等の団体との関係も良好で双方の行事を通じて交流が盛んです。施設は利用者にとって自宅と同じ生活の場である事を職員全員が認識し尊厳ある自立した生活をして頂けるよう常に振り返り支援をしています。手を抜かない丁寧な食事の提供。医療連携による健康管理と重度化や終末期の対応から看取りに至るまでご家族の理解のもとで最良の支援を目指しています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として毎日スローガンを職員で唱和し実践している。カンファレンス、管理者会議、職員全員の会議等、短時間でも話し合いの時間を持つよう心掛けている。	「いつも、そして永遠にあなたに優しく」との願いで名付けた法人名「ever優」の真意を遂行する為に、施設には理念「雲心月性」の額を掲げ、職員がその意を共有して実践できるよう様々な機会を作っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	9月の社内勉強会では管理栄養士を講師として高齢者向けの優しい味付けをテーマとし、地域の自治会の回覧板で地域住民の参加者を募る等、交流を深めている。	外部講師を招いて実施する施設内の勉強会でも、テーマが高齢者向けの食事がテーマの時等には、地域の方々にも参加を呼びかけるなど、事業所と地域住民との関係は日常的に良い関係が構築されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、通常の会議形式だけでなく利用者や地域の方々が触れ合えるように、喫茶店形式でのスタイルも取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の日々の活動状況を報告して、さまざまな意見や感想を頂き、出来る限りより良いサービスができるよう努めている。	会議は隔月に定期的に行われ、参加者も地域包括、自治会代表、地区社協、地域住民、訪看、近隣のホーム長、ご家族、利用者有志等々。議題も多岐でダイナミックでカフェ形式で行われ積極的な発言も多い事が報告書で知る事が出来ます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員不足の相談等、報告を兼ねて相談をしている。	市担当者との連携は良い関係で推移しています。運営推進会議実施報告書やその他の書類提出の際には、事業所の職員体制に関する話題など実情を交えた報告をも出来る関係になっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は常に入口は開けておき、身体拘束については拘束はしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体拘束をしないケアの意義をよく理解し共有しています。日中は玄関の施錠は行わず、利用者一人ひとりに寄り添う事で、利用者が安定した生活を送れるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての理解を深める為、社員会議、カンファレンス等で取り上げる事で常に問題意識を持つようになる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての研修や勉強会に積極的に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は最初に利用者のご家族と利用者本人に見学して頂き、ユニットや部屋等を出来る限り利用者の希望に添えるようにしている。権利、義務については契約時に詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には利用者、家族に公的な窓口を紹介している。施設での相談、苦情については管理者が責任を持って受けている。	運営に関しては、ご家族へ現況報告をする時や面会に訪れた時を捉えて意見や要望の吸収に努めていますが、出ないのが現実です。利用者の日頃の生活面に関しての要望は、即座に対応していました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時と月1回のever優社員会議時に、職員の意見や提案を聞き運営に反映させるようにしている。	最近、意見が反映された例として、ご家族が面会に来られる日は土・日に集中するのでその対応の為、土・日のシフトを増やしたらとの意見が出て、逆に土・日の業務を見直した結果、ご家族への対応や日常業務が支障なく円滑に流れている事が紹介されました。	利用者が安心して生活していただくと言う事は、まず職員の人材確保による適正配置にあると考え増員を課題としています。運営基準を満たしているも更なる充実を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者と月に1回代表会議を開き、職員個々がやりがいをもち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の社内勉強会や個々のレベルに合わせて外部研修に職員を参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡協議会、グループホーム連絡協議会に定期的に管理者が参加する事で情報交換、ネットワーク作りに、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員が必ず直接面接に伺い、生活歴や、悩み、本人の希望を聴いたり、入居予定のユニット職員と顔を合わせ不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネジャーと連携を取り、本人に一番ふさわしいサービスが受けられるように家族も含め話し合い、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーと連携を取り、本人に一番ふさわしいサービスが受けられるように家族も含め話し合い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が誘うより、入居者どおしで誘い合う方がすんなり活動される方もおり、入居者に助けて頂いている。食事の味付けや調理方法を教えて頂いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には親子関係、家族関係が不安定になっている方等、お互いの話を聴き、御家族には認知症の症状を理解してもらいながら良い関係づくりが出来るように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の要望を聴き、検討、計画している。 (ホーム職員対応での、帰宅、墓参り等)	日頃から、一人ひとりに寄り添い利用者の思いを大切に支援しているので、要望も聴き易い雰囲気があります。訪問の美容師を利用せずに馴染みの美容院へ、本を購入の為に書店へ、馴染みの店での外食など利用者の馴染みの場所や人の関係が途切れないような支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時、車椅子の入居者を元気な入居者に押しもらう。また、入居者のお互いの関係を把握したテーブル配置、ユニットを超えたコミュニケーションの場作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移った利用者については、担当者に詳しくこちらの情報を伝えてスムーズに新しい施設へ移れるよう支援している。他施設、病院等へ移った利用者の家族からも経過報告の電話がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の献立作りでは利用者のリクエストを必ず入れる。買い物、ドライブ、散歩、髪型のおしゃれ、入浴、排泄方法等、本人の思いを聴き、入居前の生活歴の中から把握してお世話するように努めている。	ホームは利用者の生活の場である事を理解し、生活歴をよく把握したうえで一人ひとりに寄り添い利用者本位の支援に努めています。その様子は職員が食事時に利用者を支援している様子でも理解できます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力の下、センター方式を利用し、またケアマネジャーからの情報を下に把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサインのチェックと家事、レクリエーションの参加の様子、会話等から把握し記録に残したり、申し送り、伝達する事で皆が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズ、家族に意向を聴き、それを課題として月1回のカンファレンスでケアにつなげる為に話し合っている。そして具体的に対策として関係する部署や関係者に協力を得て利用者本位の介護計画を実践している。	看護師兼任のケアマネージャー中心に各ユニットに計画作成者を配置、モニタリング結果やご家族・利用者の思いを大切に、全員参加のカンファレンスにより作成された介護計画を共有し支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の内容に対する気付きは青ペンで記入するようにして、計画に沿ったケアを職員間で共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの大浴場を利用したり、デイルームで、合同レクリエーションをしている。またご家族も招いての敬老会、秋祭り等を実践している。天気の良い日は中庭昼食会や、テラス昼食会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、民生委員や、社会福祉協議会のアドバイスや協力を頂いている。消防訓練では年に1回消防担当者から指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を主治医とするか、ホームの協力医を主治医にするか、本人とご家族に選択して頂いている。かかりつけの医師からの説明は可能な限り家族にも立ち会って頂きその関係を築けるように支援している。医療連携体制の下、月2回の往診で健康状態を診て頂いている。	殆どの利用者(2名は主治医が別)はホームの協力医を主治医としています。月2回の往診医も兼ねていますのでホームと協力医の関係は、ご家族を含め円滑です。往診の際には全員を診ていただけます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日常の健康管理や医療的な相談に対応している。夜間緊急時にも対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は出来るだけ早期に退院できるように医療機関(医師、看護師、ソーシャルワーカー)、家族と連絡を取り合い検討している。入院後も引き続き受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制の下で、打ち出した「重度化した場合の対応の指針」と「看取りに関する指針」に従いユニット内で意思統一を図り徹底したチームケアをしている。看取りも職員が落ち着いてこなしている。	重度化や終末期に向けた指針も有り、支援については利用契約の際、ご家族に説明し、その段階に至った時点で再度、主治医の意見を交えて話し合いが持たれます。本人・ご家族が望めば、看取りの体制も整っていて過去に9件の実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の急変時を想定して、落ち着いて行動できるように緊急連絡体制を徹底させるとともに、応急手当、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施とともに、運営推進会議では常に防災を意識した話題を取り上げ地域の方々との協力体制を築いている。	防災訓練は法定訓練を含め年2回以上は行い、利用者を安全に避難・誘導できるよう検討しています。水害など天災時は近隣の指定避難地までの移動は難しく施設内での安全確保が検討されています。	災害時に地域の協力を仰ぐ事に関しては運営推進会議での話題になる事はあっても、具体的な行動には見えないものがあります。地域の自主防災組織をも含め場所を変えての話し合いも必要と考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人の人格、個別性を尊重しさりげない介助を心がけている。受容する事で、尊厳を大切にされた対応をしている。記録等でもプライバシーを損ねるような記述をしないようにしている。	人としての尊厳を守りプライバシーを確保する事の意義は充分理解して居ても、日常、記録等の記述に於いてプライバシーを損ねた表現が出てしまう事があります。常にチェックして気持ちを正してもらおう事が、真の支援に繋がると考え、随時、話し合いが行われます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が話しかけてきた時には、じっくり受け止める。また伝えたい事がある時、短い言葉ではっきり話し、入居者の了解の言葉や表情を確認している。了解を確認できない時は繰り返し、ゆっくり伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や決まった作業がある時も入居者の状態を観察し、また入居者の意思を尊重し、ゆったりとした個々のペースを崩さず対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容車に来てもらい、希望に応じてカット、パーマ、カラーリング、髭剃りをしてもらっている。外出時の服装や化粧、普段でも髪や服装の乱れ、口の周囲等汚れに対してもさりげなくカバーしている。他の床屋、美容院へ行きたい希望があれば、付添って行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを聞いて、献立作りにかかっている。買い物、調理、片付けにも参加できる範囲で一緒に行っている。ホームの畑で採れた季節の野菜を使用し、季節感のある献立にしている。食事は必ずテーブルに一人の職員が入り一緒に食事をしている。	自己評価で実践状況が報告されていますように、ホーム内での利用者の楽しみの一つが食事であるので、利用者各位にADLに応じた係わりをしていただき自立に通ずるような支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の入居者の方のご飯の量等、医師の指示の下で、管理している。水分摂取については、自力摂取できない方には介助して飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケア、就寝前には義歯をはずし、消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつは交換時間を決めて、定期的に交換している。テーブル式・リハビリパンツ・パットの大小・流せるナプキン尿漏れパンツ等、個々に適する最小限の物を使用し、昼と夜間の対応も状態に合わせたケアをし、随時見直しをしている。腹部マッサージをして排便を促している。	ホーム利用者の超高齢化が進む現況での画一的な支援は難しく、職員各位が一人ひとりに寄り添い、快適な生活をしていただけるよう気配りする過程で、各位の状況に応じた排泄支援を行っていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつは芋、果物を中心としている。毎日レクリエーションの時間に運動を取り入れている。便秘がちの方の排便については、毎日、朝礼時にユニットのリーダーが管理者に報告し早目の対応で重度化を防いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週の前半と後半で一人週2回の入浴の決まりはあるが、入居者の状態、要望により随時入浴できる体制にしている。	週2回の入浴を基本として利用者の要望に沿うような支援をしています。余り入浴を好まない利用者には、声掛けるタイミングや声掛けの方法を変えたりして入浴していただいています。止むおえない時は清拭で対応し、清潔で快適な日々を送っていただけるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然な眠気が得られるように、本人の希望時間に入床出来るよう心がけている。車椅子の方には同じ姿勢が長時間続かないよう居室で休むよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用については処方一覽で確認し、隣接している薬局の薬剤師に随時相談しながら指導を受けている。また薬の種類が多い時は一包化できるように検討してもらい、服薬忘れ、誤薬ミスの無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝い、片付け、掃除、洗濯干し、洗濯たみ、野菜の収穫、新聞紙で作るゴミ袋作り等、一人一人に出番を見いだせるように支援している。また外出やドライブ、買い物等で気晴らしが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は積極的に畑に出たり、散歩へ出る様、働きかけている。個別にお買い物支援を実施している。中庭昼食会、テラス昼食会、外食はご家族にも声をかけている。日帰り旅行ではご家族だけでなく地域のボランティアにも声をかけている。	天気が良く穏やかな日は、近所を散歩する事が日課です。富士山麓のヒマワリ畑や蓮の花見学に、ご家族有志やボランティアの協力を得ての遠出もしました。買物、外食、馴染みの場所へのドライブなど個別支援もご家族の了解のもと行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室には安全に保管できる場所が無いので、利用者のお金は事務所で預かり、預かり証をご家族に渡して管理している。少額の買い物の際は利用者にお金を渡し職員が付き添って買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の状況を勘案しながら、手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきりと清潔感のある台所、浴室、居間の空間には、利用者にとってなじみやすい家庭的な工夫や配慮がなされている。季節を感じられる写真を貼ったり、職員が持ち寄った季節の花を生ける等癒しの空間作りに努めている。	玄関が広く、ダイニングも明るく穏やかな和らぎがあり、ホーム全体は大人が過ごすに適する共同空間です。職員が持ち寄る季節の花々が飾られ、職員が写したプロ並みの写真が展示され、利用者の習字等の作品と共に落ち着きを演出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル、椅子、ソファ等工夫して配置されており、一人になったり、それぞれ自由に過ごせる居場所の確保がなされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの個性が伺える居室環境作りがなされるよう、入居時に「入居にあたり」の文書をお渡しし、説明して家族に協力して頂きながら馴染める居室作りに心がけている。	利用者が今までと変わらない生活の場として、心配なく過ごして戴けるよう、思い思いの品々が持ち込まれ、プライベートも守られています。備えられたクローゼットを兼ねた家具は転倒防止の突っ張り棒で固定され、居室内の安全が確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下が広いので、ADLのしっかりした方は自立歩行で、手すりの必要な方は手すりにつかまり移動できるように配慮している。浴室には手すりシャワーベンチ、滑り止めマット、トイレも跳ね上げ式手すり、暖房便座、センサー照明等が設置されている。		